

日本経営倫理学会会報

JAPAN SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS STUDY

企業行動研究部会:200回を超えた月例部会

理事・企業行動研究部会長 瀬名 敏夫

企業行動研究部会では昨年4月の月例会が記念すべきひとつのマイルストーンである第200回となった。これを祝って昨年12月15日に中央大学駿河台記念館で「200回記念懇親会」が開催された。高橋浩夫会長を始め、田中宏司元副会長、水尾順一CSR研究部会長、今井 祐監査・ガバナンス研究部会長にもご参加いただき、初代幹事の柴柳さんも久しぶりにお元気な姿を見せられた。企業行動研究部会の第1回部会は平成7年3月に初代部会長の碓宗夫先生が開催され、それから18年余りで200回に達したことになる。(例会はメンバーからの発表と各自の経験も踏まえた活発な意見交換で2時間半があつという間に過ぎてしまうが、その議事録は翌月の開催案内と共に全ての部会員にメール配信される。それには第〇〇回と記されるので200回であることも簡単に分かるのである。) 思い出を交えたスピーチが途切れなく続き和やかで楽しいパーティであった。参加した多数の部会員もあらためて18年に及ぶ長い時の流れを振り返るとともに、一層の親睦を深めることができたように思われる。

記念懇親会の席上、「企業行動研究部会 200回のあゆみ」という80ページほどの記念誌が配布された。記念誌の内容は①20篇におよぶ部会員からの寄稿②企業行動研究部会の発足以来の全年次の部会活動報告③その間の日本経営倫理学会ならびに経営倫理実践研究センターのあゆみや社会情勢を整理した年表である。中でも部会員の寄稿は「企業行動研究部会と私」というベーステーマに基づいた、部会や学会と部会員自身とのかかわりを振り返ったり、今後の研究テーマなどもろもろのことに思いを馳せた味わいのあるものが多かった。

200回記念の第3のプロジェクトとして当部会での研究をまとめて出版物を発行すべく編集委員を中心に準備を進めている。テーマは昨年の当部会の研究テーマであったダイバーシティであり、特に「社会における女性の能力発揮をどう進めるべきか」にフォーカスを絞って検討が重ねられている。部会内の議論だけでは社会にわずかしかな影響を与えられないので、少しでも社会を良くし暮らしやすいものにするために積極的な社会への発信をしようという意図に基づくものである。



200回記念懇親会

小坂勝昭先生を偲んで

常任理事 西藤 輝



年が明けて早々に突然、河口理事から小坂先生ご逝去のご連絡を受け、大きなショックを受けている。学会の皆様も同じようなお気持ちのことと思います。ご案内の通り、小坂先生は企業行動研究部会部会長をされており、昨年12月には月例会に加えて、企業行動研究部会・月例会200回を記念して懇親会を開催し、小坂先生もいつものように参加され、200回記念懇親会では部会長としてご挨拶もされた。傍ら、12月6、7日には学会・CSR研究部会の皆様と「三方よし」の近江商人の街、彦根市と近郊の街に研究旅行をご一緒し、彦根市近郊・豊郷にある伊藤忠商事、丸紅の創始者である初代伊藤忠兵衛の旧邸(伊藤忠兵衛記念館)を訪れ、「三方よし」の源流を実地見聞したが、小坂先生もご一緒されていた。加えて、私は2003年以降、長年にわたり、田中宏司先生、古谷由紀子先生を始め、日本経営倫理学会の皆様と米国経営倫理学会 Society for Business Ethics が開催する年次研究大会に参加しているが、小坂先生もご一緒に参加されることが多く、ご一緒に米国経営倫理学会の研究者の皆様と経営倫理分野の研究交流に取り組んできた。小坂先生は研究者、教育者として大きな貢献をされ、傍ら学会理事、企業行動研究部会長として昨年、創設20周年を迎えた学会の更なる発展のために多くの貢献をされてきており、学会会員の一人として、小坂先生のご功績に対し改めて心から感謝申し上げますとともに、ご逝去に対し心からご冥福をお祈りしたいと思います。

*小坂勝昭当学会理事で文教大学元教授は2013年12月30日、自宅にてご逝去されました。

CSR 研究部会 101 回記念ミニシンポジウム「CSR コラボレーション」

CSR 研究部会 事務局長 蟻生 俊夫

CSR 研究部会は、2014 年 1 月 14 日(火)の部会で、記念すべき 100 回目を迎えた。2 月 18 日(火)には、次の 200 回をめざすキックオフとして、101 回記念のミニシンポジウム「CSR コラボレーション」を電力中央研究所の会議室にて行った後、懇親会を開催した。当日には、高橋浩夫会長をはじめ、手島祥行 BERC 専務理事、学会理事の瀬名敏夫企業行動研究部会長、同理事今井 祐監査・ガバナンス研究部会長、宇佐神正明理念哲学研究部会長など、部会以外の参加者も含め、40 名以上の参加を得て活発な報告、意見交換、議論を行い、盛会裏に終わった。

スケジュール
第 1 部：ミニシンポジウム「CSR コラボレーション」(18:00～、

大手町ビルディング 7F：電力中央研究所会議室)

開会挨拶・進行：日本経営倫理学会副会長・CSR 研究部会長
水尾 順一

第 1 講演：「経営倫理と CSR」 日本経営倫理学会 高橋浩夫会長

第 2 講演：「CSR とコミュニケーション」 日本広報学会 清水正道理事長

第 3 講演：「CSR と異文化経営」 異文化経営学会 馬越恵美子会長

第 2 部：懇親会 (19:30～、大手町ファーストスクエアビルの銀座ライオン)

進行：CSR 研究部会会計幹事 平塚 直

挨拶・祝辞：日本経営倫理学会前副会長・BERC 手島祥行専務理事

乾杯：日本経営倫理学会前副会長 田中宏司 BERC 理事・首席研究員

祝辞：企業行動研究部会 瀬名敏夫部会長、監査・ガバナンス研究部会

今井 祐部会長、理念哲学研究部会 宇佐神正明部会長、

住友 3M 昆 政彦副社長 ほか

閉会：CSR 研究部会事務局長 蟻生俊夫



ミニシンポジウム



高橋浩夫会長による報告



100 回記念懇親会

～近江商人「三方よし」の理念を現地で学ぶ～ CSR 研究部会活動報告

CSR 研究旅行事務局 平塚 直

日本経営倫理学会 CSR 研究部会と経営倫理実践研究センター CSR 部会の有志 17 名は、12 月 6 日(金)～7 日(土)、近江商人『「三方よし」研究旅行』を実施し、「三方よし研究所」岩根専務理事の案内で、滋賀県彦根市、近江八幡市の記念館、博物館、近江商人屋敷などを訪問し、理念の成り立ちと業績を、時代を経て実地体験をしました。

1. 三方よし研究所 岩根専務理事の講演骨子

滋賀県は昔、近江の国と呼ばれ、政治、経済の面でも大変重要な役割を果たしてきました。特に江戸時代には、今日の日本経済の発展に大きく貢献した近江商人が生まれました。ふるさと近江を遠く離れ、全国各地で活躍し、その地域の産業発展に大きく貢献しました。近江商人が展開した「諸国産物まわし」という商法や経営理念は、日本の近代的流通機構と経営原理を確立したことは現在でも高く評価され、現在の商社活動の原点となっています。

近江商人の理念・精神は、三方よし(売り手よし・買い手よし・世間よし)の言葉がよく知られております。商品を買ったら利益を求めるとは当然のことですが、自分のことばかり考えて高利を望んではならないと家訓の中で心を込めて諭しています。商品を購入した人にとっても「良い買い物をした」と喜んでもらい売り手と買い手の双方が喜ぶ、これが「売り手よし」「買い手よし」ということです。近江商人は消費者の便宜を何よりも優先して考え、こうした商売を追求していくことによって利益は後からついてくるという考えをもって行動しました。

さらに近江商人は近江から他の国(藩)に出かけて商いをしていたので「世間よし」という考えを大切にしてきました。それは出向いた藩では領地内の自給自足が経済の基本でしたから、進出してきた近江商人の存在は好ましくなかったのです。そこで近江商人は知恵をだし、出向いた地域の産業が盛んになるよう努力し積極的に地域貢献したので歓迎されました。これが「世間よし」とする商いの方法です。

地域貢献について近江商人は「陰徳善事」という言葉を尊び、人知れずよい行いをするという意味で、商いで得たお金で道や橋を修復したり、学校や病院をつくったりして地域貢献、社会奉仕のために役立てたのです。ではなぜ 400 年も前にこの近江の地から商いが発展し、現在に至るまで隆盛を継続しているのでしょうか。地理的には江戸時代は幕藩体制のもと、多くの商人が武士に統制されていた中で、近江の国は天領と飛び地の零細領域に

分割されていたため、体制から制約を受けず自由商人として活躍できた社会的背景がありました。そのことが近代商人のはしりとして発生し日本の資本主義の原型となりました。

もうひとつ、なぜその後の明治維新の混乱や明治、大正、昭和の日本経済の大きな変革のなか 400 年を経て生き残り発展してきたのでしょうか。それは家訓（経営理念）が連綿として引き継がれてきたからです。「仏の意思で商品をお届けする」「おごるもの久しからず」「先義後利栄」などの言葉として、今日まで受け継がれています。

近江商人は、一回の取引で多くの利益を求めず薄利で商品を販売して、その中から利益を得るために経費の節減や無駄な支出を削減する「しまつ」を基本とし、長い視点で利益を得るという永続性を強く意識した商いに務めてきました。この考えが事業の持続的発展の理念となり、今日まで受け継がれてきたことは、現代を生きるわたしたちにとっても学ぶことがあるのではないのでしょうか。

2. 参加者の感想

「三方よし」の本からは得ることのできない資料館等の見学と講演からなる今回の CSR 現地研修は有意義であった。三方よしの理解が原典とされる、中村治兵衛が孫に送った 3 メートルにもおよぶ 24 箇条の遺言状を生で見られたことに感謝します。この遺言状が書かれたのが 1754 年ですから、今から 250 年以上も前に書かれたことにも驚かされます。社会や地域の発展、繁栄を我が事としてとらえる考え方が実に素晴らしい。社会を発展させるという近江商人の理念は、広く日本人に共有され、明治維新後の驚異的な近代化に貢献し、戦後日本の奇跡の復興にも大きく影響したものと思います。もうひとつ感銘を受けた言葉は、五個荘の豪商であった松井久左衛門が言った「商品をお届けするのは仏の意思によって自分が代行しているのだ」です。実に謙虚であり人の倫を説いた名言だと思いました。



三方よし研究旅行の参加者

1月度研究交流例会実施報告

常任理事 潜道 文子

1月11日(土)開催の研究交流例会は前・後半ともに活発な質疑応答が行われ、会場は熱気に包まれた。以下は報告の概要である。

(1) 「韓国における国内機関投資家の議決権行使の行動と政府の対応—国民年金基金の株式所有比率の増大と議決権行使の強化についての考察—」 李 昭娟 氏(当学会会員 創価大学大学院博士後期課程)

近年、韓国では、国民年金基金の投資額の拡大及び同基金の積極的な議決権行使に注目が集まっている。政府が同基金の機関投資家としての役割を通じてオーナー企業に対する監視を行うことも可能とみられているが、企業側はそのような行動を政府のビジネスへの介入として懸念を示している。しかし、何らかの組織が企業の統制を行うことが期待される状況からすると、今後、同基金が政府から独立した立場で専門的に統制に関わることのできる構造を有することが必要とされているといえよう。



(2) 「ソフトローとしての CSR 国際規格の有効性 —エンフォースメントの類型をふまえて—」

田中 信弘 氏(当学会会員・杏林大学教授)

現在、EUでは大企業に対して、①国連グローバルコンパクト、②OECD 多国籍企業ガイドライン、③ISO26000のうち一つにコミットしていくことが推奨されており、ソフトローとしての CSR 国際規格がその影響力を強めている。これらをエンフォースメントの視点から概観すると、①と②は除名・公表や違反企業の提訴が行われるが、③は任意的指針提示型であり、エンフォースメントがない。したがって、今後、ソフトローが機能するためには、情報開示規制の有効性を確保することが重要である。



第 138 回理事会(2014 年 1 月 11 日)議事録(要旨)

議題 1、新入退会者承認の件

[新入会員] 正会員：2 名 学生会員：3 名 計 5 名
[退会者] 正会員：3 名 学生会員：1 名 計 4 名

会員数は 471 名

議題 2、創立 20 周年特別(第 6 回経営倫理)シンポジウム開催報告の件

2013 年 11 月 16 日(土)慶應義塾大学で開催された創立 20 周年特別シンポジウムについては、参加者 130 名(懇親会 46 名)となり、盛会であった。

議題 3、学会誌第 21 号掲載論文審査結果報告の件

大会発表者から提出された論文により論文 15 篇、研究ノート 2 篇、論説 1 篇、CFP 方式の応募論文により論文 4 篇、研究ノート 1 篇がそれぞれ掲載される。また、論文、研究ノート、論説のカテゴリーによる査読結果報告書の修正案が了承された。

議題 4、26 年度研究発表大会と論文募集の件

2014 年 6 月に青山学院大学で開催される第 22 回研究発表大会は、同大学の高橋文郎教授と浜辺陽一郎常任理事を中心に推進中である。実行委員長および副委員長については、高橋会長も含めた関係者にて検討する。

議題 5、日・タイ経営倫理シンポジウムの件

2014 年 11 月にバンコクにて日・タイ経営倫理シンポジウムを開催する計画については、同国の政情不安定に鑑み、実施の有無を再検討中との報告があった。

議題 6、上期収支報告と通期見通しおよび監査報告の件

「平成 25 年度の経費実績見通し」が報告され、山本監事より、管理状況は適切とのコメントがあった。

議題 7、その他

小坂理事葬儀に弔電を送付との報告があった。また、松本常任理事の入院見舞(花代)支出につき承認された。

平成26年度研究発表大会開催日決定のご案内

会長 高橋 浩夫

簡略 予てより3月14日(金)消印有効で研究報告を募集しております掲題の研究発表大会の開催日が正式に決定いたしましたので以下の通りご案内いたします。

【開催概要】

1. 開催日：2014年6月21日(土)・22日(日)
2. 場 所：青山学院大学(東京・表参道)
3. 統一論題：プロフェッション教育と経営倫理
4. 実行委員長：浜辺 陽一郎 先生(当学会常任理事・青山学院大学教授)
5. 応募要領：要旨800字程度と予稿原稿を第22回研究発表大会実行委員会宛に送付(3月14日(金)消印有効)
6. 懇親会：6月21日午後6時より青学会館(アイビーホール)にて開催予定(会費6,000円)

* 詳細は JABES web サイト (<http://www.jabes1993.org>)、もしくは事務局 (info@jabes1993.org) へ問合わせ下さい。

平成25年度年会費納入のお願い

先般の年次総会で決議されました学会諸活動を推進する財源としての年会費につき納入をお願いいたします。

◇年会費：正会員・1万円 学生・3千円 法人(上場)・5万円 法人(非上場)・3万円

◇年会費支払い有無の確認は事務局(以下)まで、お問合わせください。

◇年会費自動振替のお手続きがお済みでない各位は切換をお願いいたします。

【学会連絡先：東京事務局】

住所：〒102-0083

東京都千代田区麹町 4-5-4 桜井ビル 3 階

電話/FAX：03-3221-1477 / 03-3221-1478

E-mail：info@jabes1993.org

担当：古山常任理事(広報)

松本常任理事(総務)

発行：日本経営倫理学会

編集後記

日本経営倫理学会の研究部会の中で、CSR 研究部会が 100 回!、企業行動部会が 200 回! の開催となったという。今号では、この 2 つの記念イベントを紹介できた。10 年以上にわたる継続的、かつ積極的な活動の表れである。関係諸氏のご尽力、ご協力に対し、この場にて祝福と謝意を表したい。他方、2 つの部会の中心的なメンバーでもあった小坂勝昭先生の訃報にはただただ残念でならない。ソチ冬季オリンピックも終わり、そろそろ研究発表大会の準備にとりかかろう。(編集担当/蟻生俊夫)